

ちようさんぼし
こたえ 朝三暮四

基礎①

ちようさんぼし
朝三暮四

(中国の古い話)

昔、中国の宋^{そう}という国に、さるをたくさん飼っている男がいました。男はさるをかわいがり、さるたちも男によくなついていました。

ところが、さるの数がふえるにつれて、えさ代がかさみ、男の家はだんだん貧しくなってきました。そこで、男は、さるのえさのとの実をへらすことにしました。

男は、さるたちに言いました。「これから、とちの実を、朝に三つ、夕方に四つやることにしよう。」

すると、さるたちは、「それでは少なすぎる。」と、歯をむき出して、たいそうおこりました。

そこで、男は言い直しました。「では、朝に四つ、夕方に三つにしよう。」

すると、さるたちは、すっかりよろこんで、おとなしくなりました。一日に七つであることは、少しも変わっていないのに、目の前の数が多くなったことだけに、満足したのです。

この話から、目先のちがいにとらわれて、結果が同じであることに気づかないことや、言葉たくみに人をだますことを、「朝三暮四^{ちようさんぼし}」というようになりました。

1 男が、さるのえさをへらすことにしたのは、家がどうなってきたからですか。

だんだん

貧しく

なってきたから。

2 さいしよの男の提案に、さるたちはどうしましたか。

ア よろこんだ。

イ たいそうおこった。

ウ 何も言わなかった。

3 さるたちに一日にやるとちの実の数は、いくつですか。

七つ

4 「朝三暮四^{ちようさんぼし}」の意味に合うものに、○をつけましょう。

ア 目先のちがいにとらわれて、結果が同じことに気づかないこと

イ 朝早く起きて、夜おそくまで働くこと

ウ 動物をかわいがること